

2021年の大雨

令和3年8月は台風や停滞前線の影響により大雨

1. 概要

2021年（令和3年）の梅雨入りは、九州南部、九州北部地方、四国地方、中国地方でかなり早く、沖縄地方、奄美地方で早かった。九州北部地方と四国地方の梅雨入りは、1951年の統計開始以降最も早かった。一方、関東甲信地方でかなり遅く、近畿地方、東海地方、東北南部、東北北部で遅かった。

梅雨明けは、沖縄地方でかなり遅く、奄美地方で遅かった。一方、九州南部、九州北部地方、中国地方、近畿地方、北陸地方、東北南部、東北北部で早かった。

梅雨の時期の降水量（6～7月、沖縄と奄美は5～6月）は、九州北部地方と東北北部でかなり少なく、四国地方と東北南部で少なかった。一方、沖縄地方、奄美地方、中国地方、東海地方、関東甲信地方で多かった。

また、令和3年8月は台風や停滞前線の影響により西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁がとりまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、人的被害の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、都道府県名、観測所名とした。

(1) 5月7日～7月14日：全国（大雨）＜梅雨前線＞

令和3年5月7日から7月14日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。この前線の影響により、各地で大雨となった。これらの大雨等の影響で、土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した（被害の状況は令和3年12月3日の内閣府とりまとめによる）。

(1-1) 7月1日から7月3日

6月末から梅雨前線が北上し、7月1日から3日にかけて西日本から東日本に停滞した。前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となった。数日間にわたって断続的に雨が降り続き、静岡県複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど、記録的な大雨となった。

この大雨により静岡県熱海市で土石流が発生したほか、河川の増水や低地の浸水が発生した。

(1-2) 7月9日から10日

7月9日夜から10日にかけて、九州南部を中心に線状降水帯が発生し、雷を伴い猛烈な雨や非常に激しい雨が断続的に降り、9日からの総雨量が鹿児島県伊佐市や鹿児島県さつま町で500mmを超える記録的な大雨となった。このため、気象庁は10日5時30分に鹿児島県、5時55分に宮崎県、6時10分に熊本県に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけた。

(2) 8月6日～8月26日：全国（大雨、暴風）＜台風及び停滞前線＞

8月6日から9日にかけて台風第9号が日本に接近・上陸し、9日から10日にかけては台風第9号から変わった温帯低気圧が北日本を通過した。その後、8月11日から19日にかけて、前線が日本付近に停滞し、断続的に活動が活発になった。8月19日から21日にかけては、湿った空気や低気圧の影響を受けたほか、22日から26日にかけては、台風第12号が日本に接近し、その後台風から変わった温帯低気圧が北日本を通過した。特に8月11日から15日にかけては、東シナ海の前線が次第に東へのび、その後、西日本から東日本に停滞し、その前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で広い範囲で大雨となった。

これらの大雨等の影響で、土砂災害、河川の氾濫、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した（被害の状況

は、令和3年12月14日の内閣府取りまとめによる).

(2-1) 8月9日

8月4日に南シナ海で発生した台風第9号は東シナ海を北東へ進み、8日20時過ぎに鹿児島県枕崎市付近に上陸、九州地方を通過した後、9日09時に中国地方で温帯低気圧に変わった。その後、温帯低気圧は10日にかけて日本海から東北地方を東へ進み、日本の東海上に達した。台風や台風から変わった低気圧の影響により、西日本や北日本を中心に記録的な大雨となった。24時間降水量では島根県隠岐郡海士町で321.0mm、北海道函館市で305.5mmを観測し、ともに観測史上1位の値を更新した。また、北海道幌泉郡えりも町で最大瞬間風速43.8m/sを観測するなど、西日本から北日本の広い範囲で非常に強い風が吹き、海上ではうねりを伴って大しけとなった所があった。

(2-2) 8月12日から14日

8月12日は、九州北部地方で線状降水帯が発生し、24時間降水量が多いところで400mmを超える大雨となった。8月13日は、中国地方で線状降水帯が発生し、複数の地点で日降水量が8月の値の1位を更新するなど、記録的な大雨となった。この大雨に対して、気象庁は広島県広島市を対象とした大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけた。8月14日は、西日本から東日本の広い範囲で大雨となった。特に九州北部地方で線状降水帯による猛烈な雨や非常に激しい雨が降り続き、佐賀県嬉野市で24時間降水量555.5mmを観測し、観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。この大雨に対して、気象庁は長崎県、佐賀県、福岡県、広島県を対象とした大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけた。

気候情報

2021年の台風

発生数は22個で平年を下回ったものの、日本への接近数は12個、上陸数は3個でいずれも平年並み。

1. 概要

台風の発生数は平年より少ない22個(平年値25.1個)であった。日本への台風の接近数は平年並みの12個(平年値11.7個)で、台風の上陸数は3個(平年値3.0個)であった。第1表に台風の発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻については、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第2号(2102 SURIGAE スリゲ)

4月13日03時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、4月14日03時に同海域にて台風第

2号となった。台風はそのまま北西へ進み、4月18日03時にはフィリピンの東海上で最大勢力となったが、その後徐々に勢力を弱め、4月19日09時頃進路を北に変えた。台風は4月22日09時頃、ルソン島の北東海上で進路を北東に変え、4月23日21時頃、沖縄の南海上で進路を南東に変えた。4月25日09時までに、日本の南海上で熱帯低気圧となり、北東方向へ加速した後、4月28日09時頃、千島の東海上で東に進路を変え5月1日03時前に、東経180度線を通過した。

(2) 台風第3号(2103 CHOI-WAN チョーイワン)

5月29日09時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西へ進み、5月30日に同海域で進路を北西に変え、5月31日03時にミンダナオ島の東海上で台風第3号となった。台風は6月1日03時に同海域で最大勢力となり、その後弱まった勢力でフィリピンを通過し、3日09時に南シナ海で再び最大勢力となり、4日には

同海域で進路を北東に変え、5日15時までに、東シナ海で温帯低気圧となった。温帯低気圧は6日15時に日本の南海上で消滅した。

(3) 台風第5号 (2105 CHAMPI チャンパー)

6月20日09時にチューク諸島周辺で発生した熱帯低気圧は、西北西へ進み、マリアナ諸島周辺で次第に進路を北向きに変え、23日09時にマリアナ諸島の西海上で台風第5号となった。同海域を進んだ後、25日15時に日本の南海上で最大勢力となり、その後同海域で勢力を弱めつつ、北北東へ加速し、28日03時までに日本の東海上で熱帯低気圧になった。その後北東へ進路を変え、29日09時に日本のはるか東海上で消滅した。

(4) 台風第6号 (2106 IN-FA インファ)

7月16日03時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、17日21時に日本の南海上の南大東島付近で台風第6号となり北西へ進んだ。進路を西に変えた後、22日の03時に沖縄の南海上で最大勢力となった。その後、急に北西へ進路を変えた後、東シナ海へ入り26日に華中の沿岸に上陸した。その後、勢力を弱め、28日03時に熱帯低気圧になり、30日の03時までに温帯低気圧に変わった。北東へ進んだ後、31日21時に中国東北区で消滅した。

(5) 台風第8号 (2108 NEPARTAK ニバルタック)

7月22日21時に小笠原諸島近海で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、23日の21時に南鳥島の西で台風第8

号となった。24日の21時に最大勢力となり、その後、北西へ進んだ。日本の東海上で進路を北向きに変え、28日の06時前に宮城県の石巻市付近に上陸し、その後、北西へ進み28日15時に日本海で熱帯低気圧に変わり、31日の21時に同海域上で消滅した。

(6) 台風第9号 (2109 LUPIT ルピート)

8月2日の21時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は東へ進み、4日の09時に同海域で台風第9号となった。台風第9号は次第に進路を北北東へ変え、5日に華南に上陸し、北東へ進んだ。その後、台湾海峡を渡り、7日の09時頃に東シナ海に入った。北東の進路を維持しながら、8日の20時過ぎ、鹿児島県枕崎市付近に上陸した。9日の03時に瀬戸内海で最大勢力となり、同日の05時過ぎに広島県呉市付近に再び上陸し、09時までに鳥取県で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は日本海に入り東北地方を横断した後、東北東へ進み、16日の09時にアリューシャンの南海上で消滅した。

(7) 台風第10号 (2110 MIRINAE ミリネ)

8月3日の15時に沖縄の南海上で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、5日の15時に沖縄本島付近で台風第10号となった。台風第10号は東へ進んだ後、次第に北東へ進路を変え、8日の03時に八丈島付近で最大勢力となった。次第に進路を東へ変え、10日の09時までに日本のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、11日の15時に同海域上で消滅した。

第1表 令和3年(2021年)の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び令和2年(2020年)との比較。

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
平年値	発生数	0.3	0.3	0.3	0.6	1.0	1.7	3.7	5.7	5.0	3.4	2.2	1.0	25.1
	上陸数					0.0	0.2	0.6	0.9	1.0	0.3			3.0
	接近数				0.2	0.7	0.8	2.1	3.3	3.3	1.7	0.5	0.1	11.7
令和2年 (2020年)	発生数					1	1		8	3	6	3	1	23
	上陸数													0
	接近数								4	3	1			7
令和3年 (2021年)	発生数		1		1	1	2	3	4	4	4	1	1	22
	上陸数							1	1	1				3
	接近数				1		2	2	3	1	2		1	12

(注)・平年値は、平成3年(1991年)～令和2年(2020年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。
上陸*1 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*2 台風の中心が、国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「接近」という。

第2表 令和3年(2021年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生				台風の発生				台風期間中の最低(大)値				熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置				消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外に出た最初の日時		
		月日時	北緯	東経	東経	月日時	北緯	東経	東経	月日時	北緯	東経	東経	月日時	北緯	東経	東経			
1	DUJUAN	2 16 15	6.9	136.9	2 18 09	7.0	132.6	2 19 15	996	2 20 15	20	2 21 15	NW : 650	10.1	126.9	TD	2 23 09	15.2	122.2	
2	SURIGAE	4 13 03	7.6	138.0	4 14 03	7.9	137.2	4 18 09	895	4 18 09	60	4 19 15	440	4 25 09	21.8	136.2	L	5 1 03	域外	
3	CHOI-WAN	5 29 09	6.4	137.1	5 31 03	7.2	131.6	6 3 21	998	6 4 09	20	6 5 09	220	6 5 15	26.9	126.2	L	6 6 09	32.2	136.3
4	KOGUMA	6 11 09	17.7	113.5	6 12 03	18.3	110.6	6 13 09	996	6 13 09	18	6 12 09	390	6 13 15	20.0	104.0	TD	6 13 21	20.7	101.9
5	CHAMPI	6 20 09	9.9	150.9	6 23 09	16.1	141.3	6 25 21	980	6 25 21	35	6 25 03	280	6 28 03	36.4	145.3	L	6 29 03	41.1	159.7
6	IN-FA	7 16 03	16.6	135.1	7 17 21	21.6	133.5	7 22 18	950	7 22 18	45	7 24 18	600	7 28 03	32.2	117.9	TD	7 31 15	40.9	121.5
7	CEMPAKA	7 17 09	18.9	117.1	7 19 03	20.9	113.6	7 20 15	980	7 20 15	35	7 20 09	220	7 22 09	22.2	108.8	TD	7 25 09	18.1	107.1
8	NEPARTAK	7 22 21	21.5	146.1	7 23 21	24.2	148.8	7 27 15	990	7 27 15	20	7 25 21	E : 700	15.4	139.8	L	7 31 15	40.9	133.9	
9	LUPIT	8 2 21	21.1	111.8	8 4 09	21.2	115.4	8 9 05	984	8 9 05	23	8 9 05	SE : 600	15.4	133.8	L	8 16 03	47.6	175.2	
10	MIRINAE	8 3 15	23.8	124.5	8 5 15	26.9	128.1	8 8 21	980	8 8 21	25	8 9 15	S : 500	15.4	158.0	L	8 11 09	37.2	169.3	
11	NIDA	8 3 21	20.8	144.4	8 4 09	25.1	146.6	8 7 15	992	8 7 15	30	8 8 03	S : 440	15.4	169.0	L	8 8 21	41.7	175.0	
12	OMAIS	8 18 21	15.4	138.4	8 20 21	19.1	130.2	8 22 15	994	8 22 15	23	8 24 03	E : 220	15.1	131.4	L	8 31 21	51.9	179.6	
13	CONSON	9 5 15	9.8	130.2	9 6 09	10.3	127.8	9 11 15	992	9 11 15	25	9 10 03	NW : 330	15.1	109.2	TD	9 13 21	15.9	107.8	
14	CHANTHU	9 5 15	12.4	140.5	9 6 21	14.6	138.0	9 11 09	905	9 11 09	60	9 12 18	560	9 18 15	34.4	137.6	L	9 20 09	31.8	140.7
15	DIANMU	9 22 09	11.9	115.0	9 23 15	14.8	110.5	9 23 21	1000	9 23 21	18	9 23 21	N : 300	15.5	108.1	TD	9 26 09	域外	域外	
16	MINDULLE	9 22 21	11.2	148.6	9 23 21	13.6	143.3	9 27 03	920	9 27 03	55	10 2 03	E : 850	15.5	147.8	L	10 5 21	域外	域外	
17	LIONROCK	10 5 09	11.6	119.0	10 8 03	17.3	110.9	10 9 21	994	10 10 09	18	10 9 03	E : 750	15.5	106.9	TD	10 11 03	20.6	105.4	
18	KOMPASU	10 7 09	13.7	136.5	10 8 09	14.2	133.6	10 13 15	975	10 13 15	30	10 11 09	1100	10 14 21	19.2	105.6	TD	10 14 21	19.2	105.6
19	NAMTHEUN	10 9 03	16.6	166.0	10 10 09	17.0	160.4	10 16 15	996	10 16 15	25	10 14 03	NE : 560	15.7	167.2	L	10 19 09	域外	域外	
20	MALOU	10 23 15	11.3	141.5	10 25 03	15.4	139.0	10 28 18	965	10 28 18	40	10 28 18	E : 500	15.7	149.9	L	10 31 21	域外	域外	
21	NYATOH	11 29 03	11.7	144.0	11 30 09	12.5	139.0	12 3 09	925	12 3 09	50	12 3 15	500	12 4 09	28.4	146.5	L	12 4 15	29.0	148.1
22	RAI	12 12 03	5.8	144.8	12 13 15	6.0	141.0	12 19 09	915	12 19 09	55	12 19 09	N : 560	15.8	112.8	TD	12 21 15	21.3	115.3	

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算、強風半径は海里で解析し、10km単位に換算しているため、必ずしもこれに当てはまらない事がある)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

(8) 台風第11号 (2111 NIDA ニーダ)

8月3日の21時に小笠原諸島近海で発生した熱帯低気圧は北東へ進み、4日の09時に同海域上で台風第11号となった。台風第11号は次第に進路を東北東へ変え、7日の03時に日本のはるか東海上で最大勢力となった。東北東の進路を維持しながら台風第11号は8日の09時までに同海域上で温帯低気圧に変わり、9日の03時にアリューシャンの南海上で消滅した。

(9) 台風第12号 (2112 OMAIS オーマイス)

8月18日の21時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、西北西へ進み、20日の21時に同海域上で

台風第12号となった。台風第12号は北西へ進み、21日の21時に最大勢力となった。その後、東シナ海を北上し、次第に進路を北東へ変えた。朝鮮半島を横断した後、24日の09時までに日本海で温帯低気圧へ変わった。その後、次第に進路を東へ変え、9月1日の03時にアリューシャン近海で消滅した。

(10) 台風第14号 (2114 CHANTHU チャンスー)

9月5日の15時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、6日の21時にフィリピンの東海上で台風第14号となった。台風第14号は急速に発達しながら西へと進み、10日の15時にルソン島の東で最大

第3表 令和3年(2021年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)。

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から 概ね500km以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から 概ね300km以内に入った場合)			上陸、通過
	月日		地 域	月日		地 域	
	始	終		始	終		
2	4/22	4/25	沖縄・奄美	4/23	4/24	沖縄地方	上陸、通過なし。
3	6/4	6/5	沖縄・奄美	6/4	6/5	沖縄地方	上陸、通過なし。
5	6/26	6/28	東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	6/26	6/27	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
6	7/17	7/25	沖縄・奄美	7/18	7/24	沖縄地方	上陸、通過なし。
8	7/26	7/28	東日本、北日本	7/26	7/28	伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、北陸地方、北日本	28日06時前、宮城県石巻市付近に上陸した。
9	8/6	8/9	沖縄・奄美、西日本、東海地方、関東甲信地方、北陸地方	8/7	8/9	沖縄・奄美、西日本、東海地方、北陸地方	8日20時過ぎ、鹿児島県枕崎市付近に上陸した。 9日05時過ぎ、広島県呉市付近に再上陸した。
10	8/5	8/9	沖縄・奄美、九州南部、四国地方、近畿地方、東日本、東北地方	8/5	8/8	沖縄・奄美、東海地方、伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	上陸、通過なし。
11	8/4	8/4	伊豆諸島、小笠原諸島				上陸、通過なし。
12	8/21	8/24	沖縄・奄美、西日本、北陸地方	8/21	8/24	沖縄地方、九州北部地方、中国地方	上陸、通過なし。
14	9/11	9/18	沖縄・奄美、西日本、東日本、東北地方	9/11	9/18	沖縄地方、西日本、東日本	17日19時前、福岡県福津市付近に上陸した。 18日00時過ぎ、愛媛県松山市付近に再上陸した。 18日06時過ぎ、和歌山県有田市付近に再上陸した。
16	9/29	10/2	沖縄地方、近畿地方、東日本、東北地方	10/1	10/1	伊豆諸島、小笠原諸島、関東甲信地方、東北地方	上陸、通過なし。
20	10/28	10/29	伊豆諸島、小笠原諸島	10/28	10/29	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。
21	12/3	12/4	伊豆諸島、小笠原諸島	12/3	12/4	伊豆諸島、小笠原諸島	上陸、通過なし。

台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から500km以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。台風の中心がそれぞれの地域のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

勢力となった。その後、台風は次第に勢力を弱めながら東シナ海を北へと進んだ。14日の03時頃、同海域上で急に進路を南東へ変えた後ほぼ停滞し、その後北東へ進んだ。17日の19時前、福岡県福津市付近に上陸、九州北部地方を横断した後、18日の0時過ぎ、愛媛県松山市付近に再び上陸した。四国を横断した後、18日の06時過ぎ、和歌山県有田市付近に再び上陸した。その後、紀伊半島を横断、18日の12時に太平洋へ進み、18日の15時までに温帯低気圧へ変わった。20日の15時に八丈島の南東海上で消滅した。

(11) 台風第16号 (2116 MINDULLE ミンドウル)

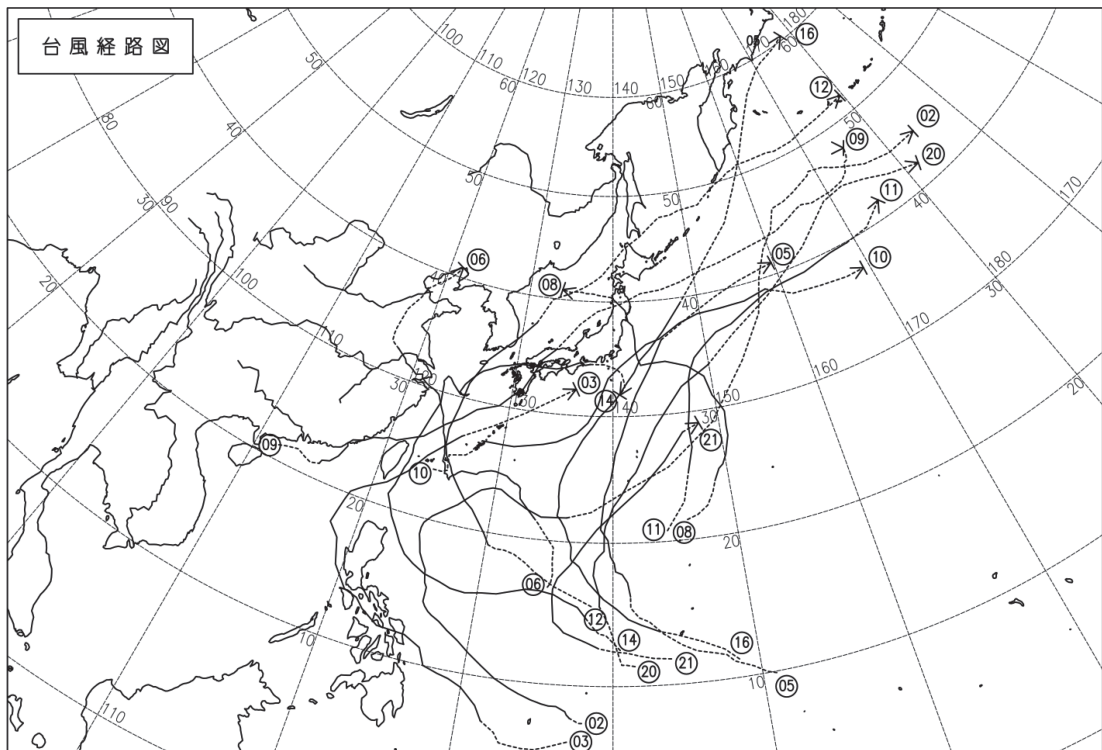
9月22日の21時にマリアナ諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、23日の21時に同海域で台風第16号となった。台風第16号は西北西へ進んだ後、進路を北西に変えた。台風は次第に進路を北に変え、26日の15時にフィリピンの東海上で最大勢力となった。台風第16号は日本の東海上で北東へ加速し、10月2日の09時にまでに同海域で温帯低気圧へ変わった。その後5日の21時前に温帯低気圧は北緯60度を越えた。

(12) 台風第20号 (2120 MALOU マーロウ)

10月23日の15時にグアム島の南西海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、24日の03時過ぎに進路を北北西に変え、25日の03時にフィリピンの東海上で台風第20号となった。台風第20号は次第に進路を北に変え、28日の03時に小笠原諸島の南西海上で最大勢力となった。その後、次第に速度を速めながら北東へ進み、29日の21時までに日本の東海上で温帯低気圧へ変わった。温帯低気圧はその後、千島の東海上で進路を東南東に変え、31日の21時前に東経180度を越えた。

(13) 台風第21号 (2121 NYATOH ニヤトー)

11月29日の03時にグアム島の南南西海上で発生した熱帯低気圧は西へ進み、30日の09時にフィリピンの東海上で台風第21号となった。台風第21号は次第に進路を北西から北に変え、12月2日には北東へ加速しながら急速に発達し、3日の03時に同海域上で最大勢力となった。4日の09時までに小笠原諸島の東北東海上で温帯低気圧へ変わり、同日21時に同海域上で消滅した。



丸で囲った数字は台風番号である。→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

第1図 台風経路図。